

平成9年度
平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT

The Hiratsuka Museum of Art 1997

目次

企画展	4
常設展示	8
教育普及	17
会場写真	28
保存・修復	30
修復作品	30
収蔵庫虫害調査	30
地震対策	31
収蔵作品	32
統 計	33
沿 革	36
組織・運営	37
美術館協議会	37
組織・職員名簿	38

企画展

光と闇——華麗なるバロック絵画展

会 期 平成9年4月26日(土)～6月8日(日)
主 催 平塚市美術館・東京新聞
後 援 アメリカ大使館
協 賛 東京海上
協 力 日本航空
企画協力 The Trust for Museum Exhibitions

16世紀末から17世紀後半まで、ヨーロッパに起こったバロックの運動は絵画においてはルネサンス期にみられたような、均整のある調和のとれた様式とは異なり、より動きのある劇的な表現に、その特徴をみることができる。

展覧会は、このバロック絵画が最盛期をむかえた17世紀に時代をしばり会場をイタリア、スペイン、フランス、フランドル、オランダという5つのセクションに分け、バロック絵画の主流である宗教画を始め、神話画、静物画、風景画、肖像画など多彩な油彩画、総計54点により構成された。作品所蔵先であるアメリカのリングリング美術館(27点)とボブ・ジョーンズ大学コレクション(27点)は、いずれも今世紀前半から精力的な収集活動をはじめ、非常に豊かな収蔵作品を誇っている。日本初公開となったベラスケスの《フェリペ四世の肖像》をはじめ、数々の名品を紹介することにより、西洋美術史上、一時代を画したバロック美術を紹介する機会となった。なおこの展覧会は平塚市美術館を立ち上げりに、東武美術館、高松市美術館、宮城県美術館を巡回した。

展覧会図録 大きさ 29.5×23.0cm
頁 数 193頁
論 文 越川倫明「カラヴァッジョとアンニーバレ・カラッチ後のローマ絵画」
中村俊春「ルーベンスと花の静物画《パウシアスとグリユケラ》をめぐって」

関連事業 ギャラリー・トーク
当館学芸員 小池光理・端山聡子



東と西を結んだ陶芸家 — バーナード・リーチ展

会 期 平成9年8月9日(土)～9月14日(日)

主 催 平塚市美術館・東京新聞

後 援 英国大使館・国際交流基金

特別協力 ブリティッシュ・カウンシル

協 力 日本航空

企画協力 アルティス

香港で生まれ、幼少期を日本で過ごし、イギリスで美術教育を受けたリーチは、1909年に来日し、エッチング指導のかたわら日本の伝統文化への理解を深め、柳宗悦ら白樺派の人々や、富本憲吉らと親交を結んだ。そして楽焼きに魅せられ1912年、六世尾形乾山に師事して陶芸の道に入り、我孫子の柳宗悦邸や麻布の黒田清輝邸内に築いた窯で作陶を続けた。1920年、濱田庄司を伴って帰英し、イギリス本土最南端のセント・アイヴスに登り窯を築き、そこでイギリス伝統の陶芸技術を習得しスリップウェア(化粧土を施した陶器)の温かい色合いを基調としたリーチ独自のスタイルを確立した。

柳や濱田らのおこした民芸運動に共鳴し、用と美を兼ねそなえた器を追求したリーチの作品には、温かく素朴な力強い生命感があふれ、特に絵付けには、詩情豊かなリーチの優れた画才がいかに発揮されている。

本展は、イギリスのヴィクトリア・アンド・アルバート美術館の主要なコレクションをはじめ、国内の主要な所蔵家から、陶器、素描、エッチングの177点を厳選し、東洋と西洋の融合を果たした陶芸家バーナード・リーチの芸術の全貌を紹介するもので、小田急美術館、栃木県立美術館、笠間日動美術館、滋賀県立陶芸の森陶芸館を巡回した。

展覧会図録 大きさ 28.0×22.9cm

頁 数 171頁

論 文 オリバー・ワトソン「バーナード・リーチ——陶芸家と芸術家」

木村理恵子「リーチの日本——東洋と西洋の融合をめぐる」



朝井閑右衛門と仲間たち展

会 期 平成9年10月4日(土)～11月9日(日)
主 催 平塚市美術館
後 援 神奈川新聞社

昭和の洋画界に独自の足跡をしるした画家、朝井閑右衛門の画業を回顧し、さらに、朝井が、自ら牽引役となった新樹会に出品した作家たちの仕事を合わせて紹介する「朝井閑右衛門と仲間たち」展を開催した。

朝井閑右衛門は、昭和11年文展に《丘の上》を出品し、一躍、画壇の脚光を浴び、文展、光風会で活躍した。しかし、戦後は画壇の中心から距離を置くかのように、横須賀市田浦に落ち着き、ただひとり自己と向き合い、電線風景やガラス台鉢などを繰り返し描いた。

一方で1947年、朝井は大河内信敬、井出宣通、須田剋太、黒田頼綱ら光風会の仲間と新樹会を結成し、その中心人物として活躍した。新樹会は、木内克、原勝郎など、埋もれた作家を世に送り出し、また、井上三綱、小泉清、瑛九ら異色の画家たちを招待し、個性派集団としても画壇の注目を集めた。さらに、朝井の眼は、若手作家の仕事にも向けられ、飯田善國、三岸黄太ら新しい世代の画家を新樹会に招いた。朝井閑右衛門と新樹会が戦後の美術界に投じた波紋は、きわめて大きいものがある。

本展では、朝井閑右衛門が初期から晩年までに描いた作品55点と、新樹会の創設時期から1960年代までに、新樹会に出品したことのある作家の作品59点、合わせて114点により、朝井閑右衛門とその仲間たちの足跡を紹介した。

展覧会図録 大きさ 29.7×22.5cm
頁 数 119頁
論 文 福田徳樹「朝井閑右衛門の観点に関する二、三の問題」
大河内菊雄「初期の新樹会について」
石渡 尚「朝井閑右衛門と新樹会」
資 料 「新樹会出品目録」、「作家解説」、「年譜」、「主要参考文献目録」

関連事業 講演会 講 師 原田 光 (神奈川県立近代美術館学芸員)
演 題 「朝井閑右衛門とその時代」
日 時 10月25日(土) 午後2時
会 場 講堂
参加者 約110人



日々の詩 ^{うた} 日本画のとらえた日常の情景展

会 期 平成10年2月7日(土)～3月15日(日)

主 催 平塚市美術館

後 援 神奈川新聞社

人々の日常の生活の情景の描写は、その初期において、年中行事や祭礼、遊楽など、人々のくらしの一場面が風景の一部としてとらえられ、季節感をあらわす要素として描かれている。しかし、日常の情景の描写は次第に独立して描かれるようになり、江戸期においては浮世絵に見るように独特の享楽的傾向をおびながら特異な発展を遂げている。本展は、浮世絵系の作家による維新後の新風俗表現を起点とする、1930年代までの47作家の日本画作品56点を展示し、風俗の表現を通じて日本画近代化の足跡を辿った。とくに、无声会ならびに国画創作協会の画家たちが、この領域において果たした役割にやや力点をおき、昭和戦前期の帝展における風俗画の流行をも意識した構成とした。

展覧会図録 大きさ 28.0×22.5cm

頁 数 80頁

論 文 岡部幹彦「日常の情景と日本画」

関連事業 対 話 日常の情景と日本画

平塚市美術館長 福田徳樹

学芸員 岡部幹彦

日 時 2月28日(土) 午後1時30分～

会 場 講堂

参加者 約100人



常設展示

今年度の常設展示は、4回展示替をおこなった。第1回から第3回の展示では、湘南ゆかりの作家の作品コーナーを導線の初めに設け、日本画作品、鳥海青児作品、寄贈作品のブロックを基本構成とした。第1回展については企画展の拡張にともない、展示室Ⅱの3分の2のスペースをあてた。第3回展は日本画を中心にした展示替とし、第4回展では鳥海青児の素描作品96点を特集展示した。

第1回常設展示出品目録 1997年4月22日～6月22日

	No	作者	作品名	制作年	材質・技法
■日本画	1	下村 観山	竹林図	不詳	絹本墨画
	2	今村 紫紅	瀧	1915	紙本着色
	3	今村 紫紅	水汲む女・牛飼う男	1914	絹本着色(双幅)
	4	横山 大観	不盡之高嶺	1915	絹本着色
	5	安田 靱彦	孔子観河	不詳	絹本着色
	6	中村 貞以	蛭	不詳	絹本着色
	7	山本 丘人	鳥の女	1935頃	絹本着色
■書	8	田中 真洲	篆隸楷行草かな	1965	紙本・墨・六曲一隻
■洋画	9	青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス
	10	朝井閑右衛門	廃園において	1926	油彩・キャンバス
	11	金子 保	裸婦	1928	油彩・キャンバス
	12	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
	13		石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
	14	黒田 清輝	由比ヶ浜	1879	油彩・板
	15	小糸源太郎	春	1916	油彩・キャンバス
	16		早春	1942	油彩・キャンバス
	17	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・キャンバス
	18		サンマルコの広場	1930	油彩・キャンバス
	19		オランダ風景	1932	油彩・キャンバス
	20		北京天壇	1941	油彩・キャンバス
	21		段々畑	1952	油彩・キャンバス
	22		壁の修理	1959	油彩・キャンバス
	23		インカの石街	1961頃	油彩・キャンバス
	24		石だたみ	1962	油彩・キャンバス
	25		メキシコの西瓜	1961	油彩・キャンバス
	26		メキシコ人の家族	1969	油彩・キャンバス
	27		果汁を吸うマヤ人	1964	油彩・キャンバス
	28		根来瓶子と果物	1971	油彩・キャンバス
	29		フラメンコ	1972	油彩・キャンバス
	30	中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス
	31		椅子の女	1941	油彩・キャンバス
	32	野口弥太郎	裸婦	1951	油彩・キャンバス
	33	原 精一	桐生風景	1927	油彩・キャンバス

■洋画

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
34	原 精一	静物	不詳	油彩・キャンバス
35		少女	不詳	油彩・キャンバス
36		二人の浴女	1949	油彩・キャンバス
37		三人の女	1951	油彩・キャンバス
38		本を見る女	1934	油彩・キャンバス
39	二見 利節	黄色い花	1951	油彩・キャンバス
40		工作机	1956	油彩・板
41		方円のある牡丹図	1974	油彩・キャンバス
42		女	不詳	油彩・キャンバス
43		裸婦のいる風景（絶筆）	1975	油彩・キャンバス
44	本 荘 越	大徳寺方丈の土間	1968	油彩・キャンバス
45		建てる	1982	油彩・キャンバス
46		丹沢山塊	1990	油彩・キャンバス
47	松 本 節	廃園の夏	1934	油彩・キャンバス
48	松山 文雄	肥料会社	不詳	油彩・板
49	森田 勝	矢車艸	1928	油彩・キャンバス
50		街	不詳	油彩・ボード
51		女の顔	1933頃	油彩・キャンバス
52	山下大五郎	平塚風景	1930	油彩・キャンバス
53		早春	1941	油彩・キャンバス
54	山本 鼎	国府津海浜より箱根連峰を望む	1936	油彩・キャンバス
55	萬 鉄五郎	海景習作	1909頃	油彩・板
56		羅布かづく人	1924	インク・紙
57		住吉神社風景	1909頃	油彩・板
58		砂丘風景	1924	油彩・キャンバス
59	養田つや子	極楽華	1971頃	油彩・キャンバス

■寄贈作品

60	吉川 朝衣	早春	不詳	紙本着色
61	鈴木 至夫	春	1955	紙本着色

第2回常設展示出品目録 1997年6月25日～9月21日

■洋画

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
1	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
2		シベリヤ駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
3		アルゼリー港	1932	油彩・キャンバス
4		アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
5		グーベルヌマン広場	1930	油彩・キャンバス
6		水田	1936	油彩・キャンバス
7		石橋のある風景	1937	油彩・キャンバス
8		蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
9		沖縄風景	1940	油彩・キャンバス
10		アカシア	1941	油彩・キャンバス
11		林泉	1947	油彩・キャンバス
12		狸穴の森	1954	油彩・キャンバス
13		川沿いの家	1954	油彩・キャンバス
14		サーカスの馬	1954	油彩・キャンバス
15		黄色い人	1956	油彩・キャンバス

	No	作者	作品名	制作年	材質・技法	
■洋画	16	鳥海 青児	草花	1950～60	油彩・キャンバス	
	17		ピカドール	1958	油彩・キャンバス	
	18		ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス	
	19		壁の修理	1959	油彩・キャンバス	
	20		石だたみ(印度ベナレス)	1962	油彩・キャンバス	
	21		段々畑	1952	油彩・キャンバス	
	22		メキシコ人の家族	1969	油彩・キャンバス	
■日本画	23	工藤 甲人	次郎雲	1970	紙本着色	
	24		残憬図	1986	紙本着色	
	25		杉	1983	紙本着色	
	26		夢と覚醒	1971	紙本着色	
	27	岩橋 英遠	戸隠	1976	紙本着色	
	28	北沢 映月	女人卍	1972	紙本着色	
	29	広田 多津	髪	1989	紙本着色	
	30	佐藤 昌美	旅の終りに	1971	キャンバス・着色	
	■洋画	31	國領 經郎	海景	1968	油彩・キャンバス
		32		寂夏	1983	油彩・キャンバス
					[撮影地]	
■写真	33	濱谷 浩	学芸諸家 藤田 嗣治	1937	東京	
	34		学芸諸家 上村 松園	1944	京都	
	35		学芸諸家 河井寛次郎	1944	京都	
	36		学芸諸家 鈴木 大拙	1944	鎌倉	
	37		学芸諸家 堀口 大学	1946	新潟県	
	38		学芸諸家 會津 八一	1950	新潟県	
	39		学芸諸家 三好 達治	1948	福井県	
	40		学芸諸家 高村光太郎	1949	岩手県	
	41		学芸諸家 安井曾太郎	1949	湯河原	
	42		学芸諸家 小林 古径	1949	東京	
	43		学芸諸家 棟方 志功	1951	新潟県	
	44		学芸諸家 木村 莊八	1951	東京	
	45		学芸諸家 高橋誠一郎	1952	大磯	
	46		学芸諸家 三岸 節子	1952	東京	
	47		学芸諸家 矢代 幸雄	1952	大磯	
	48		学芸諸家 前田 青邨	1953	鎌倉	
	49		学芸諸家 小林 秀雄	1955	鎌倉	
	50		学芸諸家 獅子 文六	1955	大磯	
	51		学芸諸家 川端 康成	1956	鎌倉	
	52		学芸諸家 安田 靱彦	1970	大磯	
	53		学芸諸家 開高 健	1982	茅ヶ崎	
	54		敗戦の日の太陽	1945	新潟県	
	55		田植女	1955	新潟県	
	56		米倉庫	1960	タイ バンコク	
	57		戦災で渡道、開拓地に移った家族	1957	北海道	
	■洋画	58	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
		59		由比ヶ浜	1897	油彩・板

■洋画

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
60	岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
61		Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
62		F氏像	1914	油彩・キャンバス
63		石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
64	椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
65		鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
66		朝子像	1927	油彩・キャンバス
67		晴子像	1943	油彩・キャンバス
68		糟谷夫人像	1944	油彩・キャンバス
69	二見 利節	澤崎節子像	1934頃	油彩・キャンバス
70		椿	1934頃	油彩・キャンバス
71		三人の女	1939	油彩・キャンバス
72		集ひ	1940	油彩・キャンバス
73		箱根風景	不詳	油彩・キャンバス
74		マドモアゼル美保	1973	油彩・キャンバス
75	井上 三綱	習作	1954頃	油彩・キャンバス
76		はたおり	1956	油彩・キャンバス
77		駆け出した牛	1956	油彩・キャンバス
78		仕事する女達	1957	油彩・キャンバス
79		王と妃	1961	水彩・墨・コラージュ・紙
80		たね	1975	水彩・墨・コラージュ・紙
81	原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
82		女の顔	1942	油彩・キャンバス
83		座裸婦	1955頃	油彩・キャンバス
84		黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
85		本を見る女	1934	油彩・キャンバス
86		たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
87		椅子にかける裸婦	1960	油彩・キャンバス
88		I先生肖像	1962	油彩・キャンバス
89		三人の女	1951	油彩・キャンバス
90		女達	1963	油彩・キャンバス
91	中川 一政	薔薇	不詳	油彩・キャンバス
92	山本 正道	風と少女	1990	ブロンズ

■彫刻

第3回常設展示出品目録 1997年9月23日～1998年1月25日

■洋画

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
1	鳥海 青児	芦屋風景	1926	油彩・板
2		シベリヤ駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
3		アルゼリー港	1933	油彩・キャンバス
4		アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
5		グーベルヌマン広場	1930	油彩・キャンバス
6		水田	1936	油彩・キャンバス
7		石橋のある風景	1937	油彩・キャンバス
8		蘇州風景	1939	油彩・キャンバス
9		沖縄風景	1940	油彩・キャンバス
10		アカシア	1941	油彩・キャンバス

	No	作者	作品名	制作年	材質・技法
■洋画	11	鳥海 青児	林泉	1947	油彩・キャンバス
	12		狸穴の森	1954	油彩・キャンバス
	13		川沿いの家	1954	油彩・キャンバス
	14		サーカスの馬	1954	油彩・キャンバス
	15		黄色い人	1956	油彩・キャンバス
	16		草花	1950~60	油彩・キャンバス
	17		ピカドール	1958	油彩・キャンバス
	18		ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
	19		壁の修理	1959	油彩・キャンバス
	20		石だたみ (印度ベナレス)	1962	油彩・キャンバス
	21		段々畑	1952	油彩・キャンバス
	22		メキシコ人の家族	1969	油彩・キャンバス
■日本画	23	下村 観山	竹林図	不詳	絹本着色
	24	今村 紫紅	熱国之巻 (小下絵)	1914頃	紙本着色
	25		入る日・出る日 (小下絵)	1915	紙本着色
	26		水汲む女・牛飼う男	1914	紙本着色 (双幅)
	27	安田 靱彦	相撲の節	1907	紙本着色
	28		稚児文殊	不詳	絹本着色
	29		日食	1925	紙本着色
	30		宮本二天像	1933	紙本着色 (双幅)
	31		赤星母堂像下図 (その1)	1943	紙本・墨
	32		赤星母堂像下図 (その2)	1943	紙本・墨・鉛筆
	33		赤星母堂像下図 (その3)	1943	紙本淡彩
	34		赤星母堂像	1943	紙本着色
	35	前田 青邨	秋風五丈原	1952	絹本墨画淡彩
	36	川端 玉章	佐野常世	不詳	絹本着色
■洋画	37	國領 経郎	海景	1968	油彩・キャンバス
	38		寂夏	1983	油彩・キャンバス
					[撮影地]
■写真	39	濱谷 浩	学芸諸家 藤田 嗣治	1937	東京
	40		学芸諸家 上村 松園	1944	京都
	41		学芸諸家 河井寛次郎	1944	京都
	42		学芸諸家 鈴木 大拙	1944	鎌倉
	43		学芸諸家 堀口 大学	1946	新潟県
	44		学芸諸家 會津 八一	1950	新潟県
	45		学芸諸家 三好 達治	1948	福井県
	46		学芸諸家 高村光太郎	1949	岩手県
	47		学芸諸家 安井曾太郎	1949	湯河原
	48		学芸諸家 小林 古径	1949	東京
	49		学芸諸家 棟方 志功	1951	新潟
	50		学芸諸家 木村 莊八	1951	東京
	51		学芸諸家 高橋誠一郎	1952	大磯
	52		学芸諸家 三岸 節子	1952	東京
	53		学芸諸家 矢代 幸雄	1952	大磯
	54		学芸諸家 前田 青邨	1953	鎌倉
	55		学芸諸家 小林 秀雄	1955	鎌倉

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
				[撮影地]
■写真	56 濱谷 浩	学芸諸家 獅子 文六	1955	大磯
	57	学芸諸家 川端 康成	1956	鎌倉
	58	学芸諸家 安田 靫彦	1970	大磯
	59	学芸諸家 開高 健	1982	茅ヶ崎
	60	敗戦の日の太陽	1945	新潟県
	61	田植女	1955	新潟県
	62	米倉庫	1960	タイ バンコク
	63	戦災で渡道、開拓地に移った家族	1957	北海道
■洋画	64 黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
	65	由比ヶ浜	1897	油彩・板
	66 岸田 劉生	自画像	1917	コンテ・紙
	67	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
	68	F氏像	1914	油彩・キャンバス
	69	石垣ある道	1921	油彩・キャンバス
	70 椿 貞雄	菊子坐像	1922	油彩・キャンバス
	71	鵠沼風景	1921	油彩・キャンバス
	72	朝子像	1927	油彩・キャンバス
	73	晴子像	1943	油彩・キャンバス
	74	糟谷夫人像	1944	油彩・キャンバス
	75 二見 利節	澤崎節子像	1934頃	油彩・キャンバス
	76	椿	1934頃	油彩・キャンバス
	77	三人の女	1939	油彩・キャンバス
	78	集ひ	1940	油彩・キャンバス
	79	箱根風景	不詳	油彩・キャンバス
	80	マドモアゼル美保	1973	油彩・キャンバス
	81 井上 三綱	習作	1954頃	油彩・キャンバス
	82	はたおり	1956	油彩・キャンバス
	83	駆け出した牛	1956	油彩・キャンバス
	84	仕事する女達	1957	油彩・キャンバス
	85	王と妃	1961	水彩・墨・コラージュ・紙
	86	たね	1975	水彩・墨・コラージュ・紙
	87 原 精一	煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
	88	女の顔	1942	油彩・キャンバス
	89	座裸婦	1955頃	油彩・キャンバス
	90	黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
	91	本を見る女	1934	油彩・キャンバス
	92	たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
	93	椅子にかける裸婦	1960	油彩・キャンバス
	94 青山 義雄	バラアーチ	1990	油彩・キャンバス
	95 三岸 節子	インカの壺	1968	油彩・キャンバス
	96 中川 一政	椅子の少女	1916	油彩・キャンバス
	97	椅子の女	1941	油彩・キャンバス
	98	薔薇	不詳	油彩・キャンバス

第4回常設展示出品目録 1998年1月29日～4月12日

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
■洋画				
1	岸田 劉生	Aの肖像	1913	油彩・キャンバス
2		F氏像	1914	油彩・キャンバス
3	木村 莊八	ギターを弾く男 (鳥海青児)	1930	油彩・キャンバス
4	黒田 清輝	波打ち際の岩	1896	油彩・板
5		由比ヶ浜	1897	油彩・板
6	鳥海 青児	シベリア駅路の雪	1930	油彩・キャンバス
7		アルジェ風景	1932	油彩・キャンバス
8		アルゼリー港	1933	油彩・キャンバス
9		沖縄風景	1940	油彩・キャンバス
10		男像	1942	油彩・キャンバス
11		オランダ水差しとレモン	1949～51	油彩・厚紙
12		梳る女	1955頃	油彩・紙
13		黄色い人	1956	油彩・キャンバス
14		ピカドール	1958	油彩・キャンバス
15		大理石をかつぐイタリア人 (大理石をはこぶ男)	1958	油彩・キャンバス
16		壁の修理	1959	油彩・キャンバス
17		ブラインドをおろす	1959	油彩・キャンバス
18	椿 貞雄	朝子像	1927	油彩・キャンバス
19	中川 一政	椅子の女	1941	油彩・キャンバス
20	原 精一	本を見る女	1934	油彩・キャンバス
21		煙草のむ男	1936	油彩・キャンバス
22		黒衣少女	1955	油彩・キャンバス
23		たまごのある静物	1956	油彩・キャンバス
24	萬 鐵五郎	海景習作	1909頃	油彩・板
25		雲と裸婦	1922頃	油彩・キャンバス
26		宙腰の人	1924	油彩・キャンバス
27		湘南風景	1926	油彩・キャンバス
■素描				
28	鳥海 青児	神戸風景 (1)	1923～26	鉛筆・紙
29		神戸風景 (2)	1923～26	鉛筆・紙
30		神戸風景 (3)	1923～26	鉛筆・紙
31		裸婦	1927	コンテ・紙
32		男像 (森田勝の顔)	1927	コンテ・紙
33		北海道風景	1928	コンテ・紙
34		銚子の海	1928	鉛筆・紙
35		北海道風景	1928	コンテ・紙
36		札幌郊外	1928	コンテ・紙
37		自画像	1929	コンテ・紙
38		ベルリン雨の街角	1930	鉛筆・紙
39		ベルリンの公園	1930	鉛筆・紙
40		シベリアの駅	1930	コンテ・鉛筆・紙
41		ウィーン風景	1930	鉛筆・紙
42		シベリアの駅	1930	コンテ・紙
43		ベルリン	1930	コンテ・紙
44		ヴェニス	1930	鉛筆・クレパス・紙
45		裸婦	1930	コンテ・紙
46		笛を吹く人	1930～31	鉛筆・紙

■素描

No	作者	作品名	制作年	材質・技法
47	鳥海 青児	男像	1930頃	コンテ・紙
48		裸婦 アルゼリーの女	1931	鉛筆・紙
49		ヴェニス	1931	鉛筆・紙
50		アルジェリア	1931	鉛筆・紙
51		アルジェリアの風景	1931	鉛筆・紙
52		ピカドール	1931	鉛筆・紙
53		シベリアの雪路	1931	鉛筆・紙
54		信州の畑	1936	鉛筆・パステル・紙
55		兵隊の通る風景	1938	インク・紙
56		中国漢口	1938	鉛筆・紙
57		塹壕のある風景 (1)	1938	鉛筆・紙
58		塹壕のある風景 (2)	1938	鉛筆・紙
59		天壇	1939	鉛筆・着彩・紙
60		沖縄風景	1940	鉛筆・グアッシュ・紙
61		つながれた馬	1947	インク・紙
62		銚子風景	1948頃	鉛筆・クレヨン・水彩・紙
63		うずくまる	1954	鉛筆・紙・鉛筆・着彩
64		裸婦	1955	コンテ・紙
65		顔をかくす	1956(54頃)	油彩・コンテ・紙
66		闘牛士(仮題)	1957	オイルパステル・鉛筆・紙
67		闘牛士(仮題)	1957	オイルパステル・鉛筆・紙
68		闘牛	1957	オイルパステル・鉛筆・紙
69		闘牛	1958	コンテ・紙
70		アッシジの寺院	1958	鉛筆・紙
71		ルカの寺院	1958	鉛筆・クレパス・紙
72		アッシジ	1958	鉛筆・クレパス・紙
73		石をかつぐ人	1958	鉛筆・紙
74		ピカドール (3)	1958	鉛筆・パステル・紙
75		闘牛士 (マタドール)	1958	鉛筆・パステル・紙
76		ピカドール (4)	1958	コンテ・パステル・紙
77		闘牛士 (2)	1958	コンテ・パステル・紙
78		石をかつぐ	1958頃	鉛筆・紙
79		壁の修理	1958頃	クレパス・紙
80		ハニワ	1959	鉛筆・クレパス・紙
81		ピカドール (5)	1959	鉛筆・パステル・紙
82		エジプトのレリーフより	1959	鉛筆・パステル・紙
83		エジプトのレリーフより	1959	鉛筆・パステル・紙
84		自画像	1959	鉛筆・紙
85		ピカドール (5)	1959	コンテ・パステル・紙
86		闘牛士 (3)	1959	コンテ・パステル・紙
87		エジプトの魚	1959頃	鉛筆・パステル・紙
88		インドエレハントの石窟像	1960	鉛筆・紙
89		ルクソールラムセス二世像	1960	鉛筆・クレパス・紙
90		スフィンクス	1960	鉛筆・紙
91		インドエローラ石像	1960頃	鉛筆・紙
92		インドベナレス風景	1960頃	鉛筆・パステル・紙
93		石像の牛	1960頃	鉛筆・紙
94		膝をつくインド人	1960頃	コンテ・パステル・紙
95		スフィンクス	1960頃	鉛筆・パステル・紙

	No	作者	作品名	制作年	材質・技法
■素描	96	鳥海 青児	エジプトの王	1960頃	鉛筆・パステル・紙
	97		メキシコ人	1961	鉛筆・紙
	98		インカの遺跡	1961	鉛筆・紙
	99		石像	1970	鉛筆・紙
	100		エジプトの牛	不詳	鉛筆・クレパス・紙
	101		沖縄風景	不詳	グアッシュ・紙
	102		男像	不詳	インク・紙
	103		男像	不詳	インク・紙
	104		職人画素描	不詳	墨・紙
	105		うずくまる	不詳	インク・紙
	106		裸婦	不詳	鉛筆・紙
	107		椅子にかける裸婦	不詳	鉛筆・紙
	108		裸婦	不詳	鉛筆・紙
	109		風景	不詳	鉛筆・紙
	110		森田勝像	不詳	鉛筆・紙
	111		風景(仮題)	不詳	鉛筆・紙
	112		風景(仮題)	不詳	鉛筆・紙
	113		エルサレム(仮題)	不詳	オイル ^o ステル・鉛筆・紙
	114		パルマにて(仮題)	不詳	鉛筆・紙
	115		ヴェローナにて(仮題)	不詳	鉛筆・紙
	116		オランダ水差しとレモン	不詳	オイル ^o ステル・鉛筆・紙
	117		エルサレム	不詳	オイル ^o ステル・鉛筆・紙
	118		インドエロラの石彫	不詳	鉛筆・紙
119		ルクソーアレキサンダー王アモンラー	不詳	鉛筆・紙	
120		ピサ	不詳	オイル ^o ステル・鉛筆・紙	
121		ローマにて(仮題)	不詳	オイル ^o ステル・鉛筆・紙	
122		鐘馗	不詳	水彩・紙	
123		毘沙門天	不詳	水彩・紙	
■日本画	124	工藤 甲人	愉しき仲間 (一)	1951	紙本着色
	125		愉しき仲間 (二)	1951	紙本着色
	126		樹木のうた	1956	紙本着色
	127		蝶の階段	1967	紙本着色
	128		次郎雲	1970	紙本着色
	129		杉	1983	紙本着色
	130		残景図	1986	紙本着色
	131		夢と覚醒	1971	紙本着色
	132		わが壁に	1985	紙本着色

「みること、つくること」11月1日(土)～12月21日(日)

【開催主旨】

つくることは、みることと深く関連し、その両方がかみ合い、バランスよくおこなわれることで、美術の見方や感じ方がより深まっていく。美術を理解するきっかけとなり、また、参加者の美術体験の幅に広がりが出るよう今年度はこれまでのワークショップよりもみることに比重をおいた活動となった。また、これらのプログラムは、美術に関心をもった人がはじめて美術と出会う体験にはどのようなものがふさわしいのかを考え計画された。こうした教育普及活動を通じて、参加者や来館者が美術館で美術と出会う体験がより豊かなものになることを目指している。

「みること、つくること」

ワークショップ関連資料の展示

開催期間	11月1日(土)～12月21日(日)の土日
開催時間	13:00～16:50
開催日数	17日
会場	美術館アトリエA

開催したワークショップに関連する資料を展示し、ワークショップ参加者と一般来館者に公開した。「子どもの表現を読み解くために」からは新妻さんの考える造形言語AとBがよくわかるような子どもたちの作品。「手は見る、伝える、つくる」からは、千葉盲学校の子どもたちが制作した陶による作品を見学者にそっと触れてもらった。また、「日本の画」からは、美術館で収集した画材を中心に、絵具などを展示した。

展示作品・資料一覧

- ・千葉県立千葉盲学校のこども達の作品4点
「何かを待っている鳥」「風のように」「どうぶつ」「切った形から」
- ・西村陽平作品2点
「堀田哲明のクレパスから」「とうがらしから」
- ・アトリエ・コバンのこども達の作品 平面22点、立体4点、お面6点
- ・「日本の土(奈良/京都/近江)からつくった絵具」14点(一世保存修復研究所製)
- ・「魂の対話 エイブルアート97・東京展」の写真資料
- ・絵具資料(平塚市美術館)
群青、緑青、珊瑚末、雲母、辰砂、朱、胡粉、石黄、墨、藍、紅、臘脂綿、棒絵具
- ・絵具原石(平塚市美術館)
絵具の元になる原石
- ・筆の資料(平塚市美術館)
筆の原毛
- ・その他の画材
膠、金箔
- ・参考資料、写真パネル



「みること、つくること」

ワークショップ(1) 子どもの表現を読み解くために—造形言語AとBの世界—

講 師 新妻健悦 (アトリエ・コパン代表)
開催日時 11月2日(日) 13:30~16:50
3日(月) 10:30~15:30
15日(土) 13:30~16:50
16日(日) 10:30~15:30の全4日
対象/人数 子どもの造形や表現に関心のある人/20名
会 場 アトリエB、A

新妻さんは、子どもの美術教育に携わってきた長い実践経験から、子どもの造形や表現を考える手がかりとして「造形言語AとB」という考え方を提案している。たとえば、絵画表現における造形言語のAとは具体的な形象(概念)を表し、また、読みとる言語で、瞬時に多くの内容を伝えることができるものこと。そして、造形言語のBとは色彩や物質感、描画材のこすれた跡や描いた人の時間や行為が感じられるような表現のことで、造形の様相をつくりあける説明像(概念)以外の要素全体ということができる。絵画はこのふたつの造形言語によって成り立っているといえるが、一般的には、造形言語Aの方がわかりやすいことから評価されやすい傾向にある。

今回は、子どもの造形や表現に関心のある大人が、まず、わかっておきたいことを体験してみるワークショップとしておこなわれた。また、「造形言語AとB」の具体的例として、アトリエ・コパンの子どもたちの作品を美術館アトリエAの資料展示で展示した。

「造形言語AとB」の考え方は、「SYNC IN ART Vol.6 宮城県美術館・ワークショップ活動の記録 新妻健悦のワークショップ『美術探検・演習—子供と美術をめぐる—』」に詳しい。

11月2日(日) 1. ブラック・ボックス

中が見えない箱に順番に手を入れてその中の「内容物」にそっと触ってから、その感触をもとに絵を描く。

2. 紙からお面をつくる

3日(月) 1. 紙の木をつくる

画用紙全体を埋め尽くすように絵具で描画し、ハサミで描画した紙を切って、木のような立体をつくる。

2. デカルコマニー・にじみ

偶然の形象に意味を持たせつつ、絵を描き加えて仕上げることで意味づけから開放されてかたちや色そのものを楽しむ。

15日(土) 1. 16種類のリンゴ像の中から一つを選び、これまでの調査データの話を聞く。

2. 柿の葉を描く

柿の葉を写生し、描いた絵の中から抽象的な色や形の面白さをさがしてそれを拡大して描く。

16日(日) 1. 造形言語AとBの話

2. 赤い色の所有

赤い布の上の赤いタオル、赤いポット、赤い工具箱などを置き、赤い色のチャートのナンバーとを照らし合わせて色合わせゲームをする。

3. ミルキーの箱を破ってスケッチ



「みること、つくること」

ワークショップ(2) 日本の画—歴史と表現と保存から—

講 師 仲裕次郎(一世保存修復研究所代表/古文化財修復家/日本画家)
入江 啓(一世保存修復研究所/古文化財修復家/日本画家)
開催日時 11月22日(土) 23(日) 30(日) 12月6日(土)の全4日
10:30~16:50
対象/人数 高校生以上25名
会 場 アトリエB、研修室

まず、仏画、水墨画、大和絵、琳派など日本の絵画の流れをレクチャー形式でおこなった。それから時代、制作方法の異なる「飛天」(法隆寺金堂壁画、7~8世紀初頭)、「唐獅子図屏風」(狩野永徳、16世紀後半)、「四季草花図巻」(尾形光琳、18世紀初頭)の3点を取り上げ、この中から参加者はひとつを選び模写をおこなった。模写の手本となったのは図録などに掲載されているカラー写真ではなく、講師の入江さんがこのワークショップのために制作した作品をもとにした。最終日には日本絵画の保存についてのレクチャーをおこなった。参加者の自宅にある古い軸物などを持参してもらい、実際に軸物の取り扱いや保存の注意について学んだ。

- 11月22日(土) 講義「日本絵画の歴史」
画集や写真などをモニターに写し、日本の絵画の流れを講義した。
- 23日(日) 模写(線描き)
墨による線描き。
- 30日(日) 模写(線描き、彩色)
前回の線描きのつづきと、天然顔料による彩色。
- 12月6日(土) 講義「日本絵画の保存」
参加者に家にある軸物をもってきてもらい、軸物の取り扱い方、保存の方法などについて講義した。



「みること、つくること」

ワークショップ(3) 彫刻とは何かー共感としての触覚ー

講師 黒川弘毅 (山岸鋳金工房保存修復担当/彫刻家)
開催日時 12月7日(日) 14日(日) 21日(日) の全3日 10:30~16:50
2月14日 鋳造の見学
対象/人数 一般/20名
会場 美術館アトリエB他

長い歴史をもつ彫刻に「つくるとは何か」というテーマで迫り、彫刻についてのレクチャーと制作を体験した。

翌年の2月にブロンズ彫刻の鋳造工房(山岸鋳金工房)を訪問し、参加者が制作したレリーフが鋳造されるプロセスを見学した。

12月7日(日) 講義1 彫刻について、作者とは何か、作品とは何か、つくるとは何かという点から講義した。

講義2 彫刻の歴史をスライドを使用して講義した。

12月14日(日) 制作1 石膏が固まる性質を用いて、すばやく立体を制作する。

テーマ1 「静かさや岩にしみいる蟬の声」の「蟬の声のしみ込んだ岩」を制作。

制作2 石膏で立体を制作。

テーマ2 制作1の岩から「蟬の声」を掘り出した。完成したものをアトリエAの床に並べてみんなで見る。

12月21日(日) 講義3 鋳造の技法とその歴史についての講義。

制作3 鋳造のためのレリーフ制作。

固形ワックスを材料に、はんだコテや熱した工具などでレリーフの原型を制作。

2月14日(土) 山岸鋳金工房見学とレリーフの鋳造 13:00~16:00 東京都西多摩郡瑞穂町の山岸鋳金工房にて鋳造工房の彫刻の保存に関する仕事、鋳造のための設備などの説明を受け、見学した。最後に自作のレリーフからつくられた型にブロンズを流し込み、割り出すまでを見学した。



「みること、つくること」

子どものワークショップ(1) 手は見る、伝える、つくるー感覚から造形へー

講師 岡崎清子 (美術教育家/フリーキュレーター)

リーダー 青木由香 諏訪功一郎 永井等 平野貴子

開催日時 11月8日(土) 13:00~16:50

9日(日) 10:30~16:30

対象/人数 小学生24名

会場 アトリエA、B、前庭

手で触れて感じることは、眼で見る時とは違うものに気づく新鮮な体験のはじまりという考え方から今回は身の回りのものから千葉盲学校の子どもたちがつくった作品まで、いろいろなものを手で触って感覚を鋭くしてから、ひとりあたり20kg以上の粘土で身体全体を使って格闘し、大きな作品を制作した。

作品制作は造形体験が目的で、焼成を前提にしていなかったため、すべてというわけにはいかなかったが、希望者には焼成もおこなった。

- 11月8日(土)
1. ビデオ(手で見ているところ)の上映とお話
盲学校のこども達のビデオを見て、岡崎さんの話を聞く
 2. ブラインドウォーク
二人一組で交代でアイマスクをつけ、美術館前庭の木に触れる
 3. 全身で粘土と遊ぶ
1グループ120kgの粘土、ひもづくり、どこまで長くできるか、どこまで高く積めるか
 4. 作品の土台づくり

- 11月9日(日)
1. ビデオ(作品をつくる)と粘土のお話
 2. 千葉盲学校のこども達の作品に触れる
 3. 粘土の説明
粘土は乾く、固くなる、焼く
 4. 粘土でつくる
 5. みんなの作品を見る

*制作した作品は大きくて重いので、1週間以上乾燥させてから、持ち帰ることになった。また焼成は、12月中旬までゆっくり作品を乾燥させ、12月中旬に素焼き、1月初めに「火色釉」を薄くかけて本焼きした。



「みること、つくること」

ワークショップクラブ（1） 美術をみるために何をする？

リーダー	端山聡子（当館学芸員）
開催日時	11月1日（土）29日（土）12月13日（土）20日（土） 1月17日（土）2月7日（土）28日（土）3月14日（土）28日（土） の全9日13：00～17：00
対象／人数	一般／13名
会場	アトリエA、B、他

これまでのワークショップクラブ（以下WSC）「植物から生まれる色」「GOLD」に引き続き、今回は「美術をみること」をテーマにメンバーを募集した。WSCとは、メンバーの興味や関心を出発点に、メンバー中心の活動をおこなう自主研究グループのことで、テーマについてさまざまな角度からのアプローチを試みている。

今回のWSCでは見ること、聞くこと、話すこと、つくることなどの体験を通して、楽しみながら「美術をみること」の多様性を学び深めるため、以下の8項目をメニューとして提案した。

1. 美術館ってどんな場所
2. 歴史から美術をみること
3. 街の中のアート・ウォッチング
4. 美術家の目で美術をみると…
5. 美しい／美しくないをめぐる
6. （美術）作品の制作
7. 材料や技法から美術をみる
8. 経済と美術の関係

この活動は1998年4月以降も続いている。

-
- 11月1日（土）第1回 オリエンテーション
1. ワorkshopクラブについて（説明）
 2. 美術のイメージについて
「美術」だと思うものを書き出す
 3. 今後のワークショップクラブの内容について
どのようなことに興味があるか書き出す
- 11月29日（土）第2回
1. メンバーによる発表
 - ・「美術鑑賞に必要な色彩知識」
 - ・「ファン・ゴッホと宗教」
 - ・「VINCENT VAN GOGHーゴッホと日本」
 2. 美術について知りたいこと



- 12月13日（土）第3回
1. メンバーによる発表「ゴッホについて」
 2. メンバーによる発表「私の気になる美術」
 - ・ラウルデュフィ「レガッタ」
 - ・アバカノヴィッチ／アンディゴールズワージー
 - ・パウル・クレー「こころよい遊び」「市町村台帳の1ページ」／ブライアン・ワイルドスミス
 - ・モランディ／セザンヌ「カルタ遊びの人」／エゴンシーレ
 - ・バチカンの大聖堂
 3. 美術館の見学
 4. 美術館職員の仕事
 - ・警備
 - ・設備
- 12月20日（土）第4回
1. メンバーによる発表「私の気になる美術」
 - ・百済観音の紹介とマチス
 - ・小倉遊亀の作品
 - ・ルドン「赤い船」とモランディ、セザンヌ
 - ・信州の無言館
 - ・モロー
 - ・富本憲吉
 2. 美術館職員の仕事
 - ・清掃
 - ・受付
- 1月17日（土）第5回
1. メンバーによる発表「私の気になる美術」
 - ・湘南地域の作家「二見利節」について
 - ・ファイバー作品（天利）紹介
 - ・パステル作品（若狭）紹介
 2. パステルによる描画体験
- 2月7日（土）第6回
1. 企画展「日々の詩 日本画による日常の情景」見学
 2. メンバーによる発表
 - ・無言館について
 3. 美術館職員の仕事
 - ・美術館の管理運営
 4. 日本画の描画体験
 - ・「日本画の画材と表現」を紹介
- 2月28日（土）第7回
1. 「画材と表現—書と画は同じ—」
 - ・田建平さんの作品の紹介と墨と紙の表現を体験
 2. 美術館職員の仕事
 - ・美術館館長の役割
- 3月14日（土）第8回
1. 美術館職員の仕事
 - ・学芸員の仕事「展覧会の開催」
 2. 印象に残っている展覧会
 3. 自分がみたい展覧会イメージ
- 3月28日（土）第9回
1. これまでのWSCの活動を振り返って
 2. 今後の活動について



ワークショップクラブ 金 (GOLD)

リーダー 端山聡子 (当館学芸員)
開催日時 4月5日、4月26日、その他随時
対象/人数 一般/13名
会場 アトリエA、B、他

このワークショップクラブ (以下WSC) は1996年秋に開始した活動なので、この年報では1997年4月以降の活動記録のみの記載となる。このWSCの活動内容は「1997 ワorkshopクラブレポート NO.4 GOLD」としてまとめられた。

1997年4月5日 第10回 メンバーの発表
4月26日 第11回 全体討議 ワorkshopクラブの活動を振り返って

5月～8月 「1997 ワorkshopクラブレポート NO.4 GOLD」の
執筆・編集作業

1998年3月 WSCレポートの完成

「1997 ワorkshopクラブレポート NO.4 GOLD」

A6版/24頁

編集 高島靖弘 (WSCメンバー)、三村恵子 (WSCメンバー)

執筆 WSCメンバー13名



みる・きく・はなす・美術鑑賞

美術をみることを通して美術と美術館への理解を深めるための教育的なプログラムとして主に常設展示室、アトリエなどをつかっておこなった。このプログラムは、グループ（3人以上10人以下）でおこなう。いわゆる展示解説とは少し異なり、お話をすることで美術をみることの糸口を探し、参加グループに適したプログラムを提案し、実施する。

リーダー 端山聡子（当館学芸員）
開催日 4月4日（金）午前、午後の2回
対象／人数 こどもからおとなまで（3人以上10人以下のグループ）
午前7人、午後4人
会場 美術館常設展示室及びアトリエ

ビデオ製作

「自作を語る 日本画家 工藤甲人 平塚市美術館所蔵作品から」
企画：平塚市美術館
製作：（株）文化工房
作品分数：15分42秒

平塚市美術館が所蔵する工藤甲人作品のなかから「愉しき仲間(一)」、「愉しき仲間(二)」、「樹木のうた」、「蝶の階段」、「次郎雲」、「残襟図」の6点を選び、それぞれの作品について、制作の動機、テーマ、芸術観などを、作家自身が語るビデオを製作した。

初心者陶芸教室

土練りからはじめ、手捻りにより作品を作り、釉薬をかけて、窯詰め、窯出しまでを4日間で体験する講座とした。焼き物を作るためには、いろいろな行程があり、そのどれもが欠くことの出来ない作業である。この講座では、素材である粘土に焦点をあて、その特徴をしっかりと理解するために、土練り、成形に時間をかけた。

対象	高校生以上
定員	18名（参加総数15名）
開催日	6月29日、7月6日、7月20日、7月27日
時間	13:00～16:30
場所	美術館アトリエB



夏休み子供陶芸教室

小学校の低学年を対象に2講座、高学年を対象に2講座開催した。1年から3年生の低学年は、テラコッタ粘土を使い、粘土遊びの延長の中から、その特徴をつかむことを目的とした。4年から6年生の高学年は、「うつわ」という機能を条件に手捻りで作品を作った。特に高学年の講座は、粘土という素材になれている子供たちが、焼き物としての粘土の特徴、成形の違いを学ぶことを目的とした。

対象	小学生
開催日	Aコース 8月5日 Bコース 8月6日 Cコース 8月8日 Dコース 8月9日
定員	各コース 18名（参加総数61名）
時間	13:00～16:30
場所	美術館アトリエB



初心者陶芸教室

初回は、土練りのためにほとんどの時間をついやした。2日目から手捻りにより作品を作り、削り作業、施釉作業、窯詰め、窯出しまでを後の4日間で体験する講座とした。また、電動轆轤をいつでも使えるように準備し、自由に体験してもらった。この講座では特に素材である粘土に焦点をあて、より深くその特徴を理解するために、土練りの練習に時間をかけた。

対 象 高校生以上

定 員 各コース18名 (参加総数33名)

開催日 Aコース 2月11日、2月14日、2月21日、3月2日、3月15日

Bコース 2月8日、2月15日、2月22日、3月8日、3月15日

時 間 13:00~16:30

場 所 美術館アトリエB



ワークショップオリジナルブックの制作

教育普及活動の記録として、あるいはワークショップ参加者へのテキストとして制作したものをひとつのテーマでまとめ、新たな解説を加えて発行したシリーズものの小冊子。これらは館内ミュージアムショップで1冊500円で販売している。

1. 読むワークショップ⑦

「紅花・茜・コチニールの『あか』」

B 6 変形版/28頁

編集・解説 端山聡子

イラスト 山田りえ



2. 読むワークショップ⑧

「西洋古典絵画の技法・材料と表現」

B 6 変形版/20頁

編集・解説 端山聡子

イラスト 山田りえ



会場写真 企画展

光と闇
華麗なるバロック絵画展



バーナード・リーチ展



朝井関右衛門と仲間たち展



日々の詩
日本画のとらえた日常の情景展

常設展示



市民アートギャラリー



保存・修復

平成9年度修復作品

	No	作者名	作品名	技法・材質	サイズ (cm)
絵画	1	井上三綱	坂道	油彩・キャンバス	45.1×53.3
	2		三人の女	油彩・キャンバス	35.0×57.5
	3		髪	油彩・キャンバス	65.5×50.0
	4		武人達	油彩・キャンバス	45.4×95.6
	5		馬の親子	油彩・キャンバス	49.4×64.9
	6		牛の親子(仮)	胡粉・弁柄・墨・紙	25.3×55.0
	7		牛(仮)	胡粉・墨・紙	31.3×40.6
	8		文字のおこり(仮)	胡粉・弁柄・墨・紙	38.0×45.6
	9		卓上の壺(仮)	胡粉・顔料・紙	37.8×45.8
	10		馬(仮)	胡粉・顔料・紙	37.8×45.5
	11		牛(仮)	胡粉・コンテ・紙	14.9×19.2
	12		牛の顔(仮)	パステル・紙	37.8×28.1
	13		叩かれた蚊(仮)	胡粉・弁柄・墨・紙	27.0×37.0
彫刻	1	佐藤忠良	緑	ブロンズ	190.0×80.0×70.0
	2	舟越保武	海の顕彰碑・渚	ブロンズ	94.0×60.0×50.0
	3	柳原義達	座る女	ブロンズ	71.0×100.0×45.0
	4	保田春彦	赤錆の幕舎	コールテン鋼	257.0×296.0×209.0

収蔵庫虫害調査 (虫害モニタリング)

収蔵作品を生物被害から守るために、開館時に収蔵庫内を燻蒸ガスによって燻蒸殺菌・殺虫処置を実施したが、以後定期的に行うことを避け、新規に収蔵庫に入庫する作品の個別燻蒸処置のみ実施してきた。個別の新収蔵作品は、自動減圧燻蒸装置でエキボンによって燻蒸し、除塵し、クリーンな状態にして収蔵を行ってきた。収蔵庫の膨大な体積を危険な燻蒸ガスで満たす収蔵庫燻蒸を可能な限り控える方針は、変わらない。燻蒸ガスは、オゾンホールの原因となるため、モントリオール議定書による決議で、フロンガス、燻蒸ガスの製造は2010年までに全廃される見通しである。ますます、燻蒸ガスを使用しない虫害モニタリングによる虫害監視は重要性を増している。代替の燻蒸ガスの研究・開発が急務となっている。

本年度も委託調査による目視による採集とフェロモントラップ(採集器)による採取を行ったが昆虫類は捕獲されず、収蔵環境の良好な保存状態が確認された。

実施期間	平成10年1月23日～2月13日
調査報告	平成10年2月13日
調査対象	収蔵庫 1 552.58m ² ×3.6mh
	収蔵庫 2 25.6 m ² ×3.6mh
	特別収蔵庫 24.19m ² ×3.6mh
調査機関	財団法人 文化財虫害研究所

地震対策

昨年に続き館内における地震被害対策として残る対策を継続して行った。

① スポットライト落下防止対策

展示室天井に5.4mグリッドに設備された、配線ダクトに吊り下げられるスポットライト400灯分に装着させる、落下防止金具を追加発注し、本年度は100灯分用意した。

② 収蔵作品落下防止対策

収蔵ラックに吊り下げられる絵画作品には、当館設計のS型掛け金具に外れ防止返し付きを施した新製品が、メーカーによって開発され、昨年に引き続き補充をはかった。

③ 額裏耐地震改修対策

常設展示ならびに貸出頻度の高い作品を対象に作品額裏の点検調査を行い、自重の測定、吊り元金具の強度と額裏の仕様について改良を行った。作品によって鑑賞の妨げになるアクリルカバーを取り除き、端先の調整等を行い軽量化を図った。

調査改修委託 有限会社 トップアート

平成9年度 収蔵作品

■寄贈作品	作者名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	寄贈者(敬称略)
	近藤 弘明	寂照夜	1992	紙本着色	168.5×165.8	近藤 弘明
	竹中恵美子	テーブルとレモン	1953	油彩・キャンバス	130.3× 50.0	竹中恵美子
		あざみ	1955	油彩・キャンバス	100.0× 72.7	竹中恵美子
	田澤 茂	太陽の街	1968	油彩・キャンバス	194.0×259.0	田澤 茂
		民話 紋	1964	油彩・ボード・パラフィン	169.3×184.5	田澤 茂
	宮崎 進	海	1978	油彩・キャンバス	80.3×116.7	宮崎 進
	保田 春彦	デッサンA	1990年代	鉛筆・インク・フェルトペン・紙	12.5× 18.0	南天子画廊
		デッサンB	1990年代	鉛筆・インク・フェルトペン・紙	26.1× 18.4	南天子画廊



近藤 弘明《寂照夜》1992年



宮崎 進《海》1978年



田澤 茂《太陽の街》1968年



竹中恵美子《あざみ》1955年



竹中恵美子
《テーブルとレモン》1953年



田澤 茂《民話 紋》1964年



保田 春彦《デッサンA》1990年



保田 春彦《デッサンB》1990年

統 計

平成9年度 観覧者数

月	企 画 展	常 設 展	観覧者数計
4	913	1,267	2,180
5	7,224	5,534	12,758
6	3,979	3,477	7,456
7	0	1,094	1,094
8	5,083	4,607	9,690
9	4,895	3,956	8,851
10	2,032	1,906	3,938
11	1,772	1,863	3,635
12	0	388	388
1	0	712	712
2	2,463	2,170	4,633
3	2,778	2,792	5,570
合 計	31,139	29,766	60,905
前年度末	406,425	356,400	762,825
会館以来	437,564	386,166	823,730

平成9年度 施設利用状況

月	展覧会 開 催 日 数	視 察 ・ 施 設 見 学						会 議 等 件 数
		市 内		市 外		計		
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数	
4	26			3	17	3	17	3
5	27	2	36	3	62	5	98	1
6	23	1	26	1	42	3	68	
7	27	1	35	1	19	2	54	1
8	27			2	21	2	21	
9	24			2	31	2	31	2
10	27			2	14	2	14	7
11	26	1	20	4	75	5	95	8
12	23			1	14	1	14	3
1	21			2	6	2	6	2
2	24	1	25	2	20	3	45	4
3	26	3	96			3	96	5
合 計	301	9	238	23	321	32	559	36

平成9年度 学校団体観覧利用者数

		常 設 展			企画展・常設展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小学校	市内	10	507	31	4	258	13
	市外	4	242	12			
中学校	市内	5	30	10	7	32	20
	市外	0	0	0			
高等学校		3	38	10	3	17	16
合 計		22	817	63	14	307	49

平成9年度 市民アートギャラリー利用状況

月	展覧会 開催 日数	利 用 団体数	入場者数 (人)	展 覧 会 名
4	24	7	6,242	湘南芸術家協会展、平塚写真連盟創立25周年記念写真展、 第12回湘南市民美術展、花のあとろえフルール展、 井上絵画教室作品展、湘美会展、湘南書道同好会
5	26	4	6,087	寂静会「想展」、第29回平塚書道協会展、 県民書連役員選抜展、坂間弘康・二十歳の軌跡
6	14	4	5,467	父・娘三代沢史子・水原房次郎展、楽窪会作品展、柳彩会水彩画展
7	25	5	2,826	第20回平塚市展、第2回F6号アマチュア絵画コンクール、 夢前・松煙美術館、神奈川県筆友書道連盟公募展、 すさ美会展、00/21展
8	26	5	4,121	水美日彩会展、圓心流画道松尾咲心教室発表会、 全国七夕競書大会展、第26回大門書悠会、 アールヴィヴァン湘南・青い鳥アートスクール美術展
9	25	5	7,209	現代美術家展、フォト・ファミリー展、第33回JRP写真展、 集団個展、平塚カコウ会展
10	26	5	7,402	キルト展、花づくし展、鶴巻久吾米寿記念木彫作品展、 第45回平塚市文化祭、MOA美術館児童作品展
11	25	5	7,563	平塚市幼少図工作品展、スモールワールド美術アンファン展、 藤村弘子ファミリー展、市内中学校絵画展
12	19	4	1,733	日本画第9回なでしこ会展、朱夏の会作陶展、創作人形と書展 親と子による写生会作品展
1	20	4	3,012	グーチョキパー展、波の子造形教室作品展98、 平塚市保育園絵画展、中学教員美術展
2	24	5	4,420	なかよし作品展、宏道流神奈川支部支部展、 第22回湘南工芸家協会展、青陶会作品展、彩心会作品展
3	25	5	5,219	18人会展、銀杏カルチャ教室発表展、その絵の会作品発表会 樟き会水墨画作品展、足柄刺繍・繡の会15周年記念展
計	279	58	61,301	

平成9年度までの 市民アートギャラリー入場者の推移

平成2年度	(1)件	3,265人 (市民美術展H3.3.27~)
平成3年度	41件	61,152人
平成4年度	50件	71,107人
平成5年度	52件	60,426人
平成6年度	56件	61,948人
平成7年度	61件	62,632人
平成8年度	62件	61,412人
平成9年度	58件	61,301人
<hr/>		
総計	381件	443,924人

沿 革

1984年	5月	美術館建設研究委員会（庁内）
1985年	7月	平塚市美術館基本構想策定委員会設置1986年まで8回開催）
1986年	3月	「平塚市美術館基本構想策定」答申
1986年	4月	美術館建設基本計画策定連絡協議会設置（庁内）
1986年	9月	「平塚市美術館建設基本計画」策定
1988年	4月	美術館建設準備室設置
1989年	6月	美術館建設起工
1990年	10月	美術館本体工事竣工
1990年	12月	平塚市美術館条例公布
1991年	3月	平塚市美術館開館
1996年	10月	平塚市美術館開館5周年記念展 「ミレーとバルビゾン派の画家たち」

組織・運営

美術館協議会

委員名簿

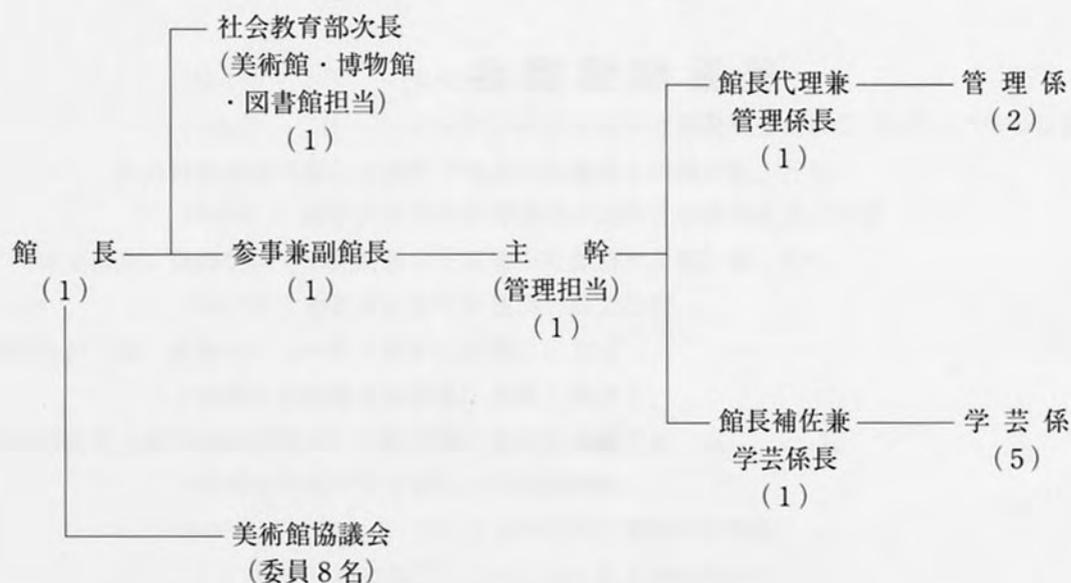
会 長	佐藤 一俊	平塚市立春日野中学校校長
副会長	松井 洋子	元教育委員
委 員	村重 寧	早稲田大学文学部教授（美術史家）
	松前 紀男	東海大学前学長
	室賀 實	平塚ステーションビル（株）代表取締役社長
	大貫 達雄	平塚市美術協会会長
	高橋 伸幸	日産サニー湘南販売（株）常務取締役
	岩崎由紀子	国立音楽大学助教授

協議会の開催

平成10年2月18日（水）（美術館研修室）

- 1 委員委嘱式
- 2 美術館事業

組 織



職員名簿

館 長	福田 徳樹
社会教育部次長 (美術館・博物館 ・図書館担当)	星崎 孝夫
参事兼副館長	古谷 勇
主 幹 (管理担当)	亀谷 幸蔵
館長代理兼管理係長	湯口 進一
管 理 係	添田 勝子
	高橋 秀夫
館長補佐兼学芸係長	森田 英之
学 芸 係	岡部 幹彦
	石渡 尚
	鈴木 幹
	端山 聡子
	小池 光理

平成9年度

平塚市美術館年報

発行 平塚市美術館

〒254-0073 平塚市西八幡1-3-3

Tel.0463 (35) 2111

印刷 (株) グラフ

Tel.0463-54-8000

平塚市四之宮1005

平成10年4月1日発行